

# 制度と

# 権利の

# あり方を問ひ直す

国際政治と草の根の視点から

## セッション1

### 独立、残留、自治

地域から考える中央政府との関係

- 古沢 希代子 (東京女子大学)
- 阿部 小涼 (琉球大学)
- 江上 能義 (琉球大学名誉教授)
- 小林 聡明 (日本大学)
- 島袋 純 (琉球大学)

## セッション2

### 権利と権利の外

“草の根”の実践と国際政治の変化

- 森 宣雄 (同志社大学)
- 熊本 博之 (明星大学)
- 佐藤 学 (沖縄国際大学)

## セッション3

### 権利と規範の行方

未来のための歴史と実践

- [ファシリテーター]
- 梅森 直之 (早稲田大学)

2017年12月9日 土 11:00 - 18:00

沖縄県立博物館・美術館〔博物館 講座室〕

沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 沖縄都市モノレールゆいレール「おもろまち」駅下車 徒歩10分

問い合わせ 早稲田大学地域・地域間研究機構 事務所 oris-jimu@list.waseda.jp TEL.03-5286-1458

主催 早稲田大学地域・地域間研究機構

共催 科学研究費・基盤研究 (A)「東アジアにおける歴史和解のための総合的研究」(研究代表:梅森直之・早稲田大学)

中央政府との関係、先住民の権利、島嶼と軍隊の問題などさまざまなテーマについて考察と再考を促す場、沖縄。生活をかきつけて強権的な国家や軍へ声をあげ、交渉する人々もいれば、国民意識や国防、安全保障のために、とクニへの協力を唱える人々もいる。

私たちが自分たちの生活や家族、子孫の将来を考えると、権利はどのように解釈され行使されるのだろうか。制度は権利をどのように保障するのか、あるいは保障しないのか。現在の国際政治にみられる「二国ファースト」や「内向き」の流れは、これまでの価値や規範へどのような影響を与えるのだろうか。そして、この変化は沖縄に何をもたらすのだろうか。

問いを立てることは簡単だが答えることは難しい。沖縄固有の歴史や現状から投げかけられるこれらの課題は同時に、沖縄以外の「場」でも問われ続けているテーマだろう。それぞれの地で生活する人々は何を考え、どう動いたのか。国境線を引き直す「独立」や国境内での「自治」、変化を問う住民投票を経験している他地域の事例をふまえ、軍隊や中央と地方との関係、人権・制度・生活の関係といった古くて新しく、そして切実なテーマを今一度、考えてみたい。

# 独立 隊 自治人 権在 地方 中央 と 制度 生活